

「個別の指導計画」作成の研修プログラムの検討

—教員養成学部段階における試み—

A Training Program for Creating an Individualized Education Plan

小 方 朋 子¹ ・ 山 本 木ノ実²

Ogata Tomoko, Yamamoto Konomi

【要旨】

個別の指導計画とは、「個々の児童の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある児童など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの」として、小学校学習指導要領解説総則編(中学校も同様)に記載されている。本研究は、大学の学部生に対して、教員養成段階で個別の指導計画を知り、実際に一度は作成してみる、という目的で、演習方式での実践を試みたものである。香川県教育委員会特別支援教育課との連携のもと、簡易版個別の指導計画を作成することを目標として、短時間でできるワークを実施した。これらのワークは個別の指導計画を作成する際の心理的な壁を低くすることに役に立ったと考えられる。今後さらに演習を重ね、児童生徒理解が妥当かどうか、子どもの立場に立って考えることができているか、実態から考えて短期目標が妥当かどうかを複数の参加者で話し合いを交えながら考え、作成していくことが必要である。

キーワード：個別の指導計画、研修プログラム、教員養成

1. はじめに

個別の指導計画とは、「個々の児童の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある児童など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの」として、小学校学習指導要領解説総則編(2017)(中学校も同様)に記載されている。

令和2年度にまとめられた新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議では、「1. 全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性(求められる資質・専門性)」として、「全ての教師には、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力や、個別の教育支援計画・個別の指導計画などの特別支援教育に関する基礎的な知識、合理的配慮に対する理解等が必要である。」とされ、また、「2. 特別支援学級、通級による指導を担当する教師に求められる専門性(求められる専門性)」として、「特

別支援学級や通級による指導の担当教師には、通常の教育課程に基づく指導の専門性を基盤として、実際に指導に当たる上で必要な、特別な教育課程の編成方法や、個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成方法、障害の特性等に応じた指導方法、自立活動を実践する力、障害のある児童生徒の保護者支援の方法、関係者間との連携の方法等に関する専門性の習得が求められる。」とされた。

しかし、実態としては、赤木・大塚(2019)の調査にもあるように、作成する教員は負担感や困難さをかなり感じている。赤木らは「作成にかかる時間」「アセスメント」「目標設定」「検討会・評価会」という4つの領域に注目して検討しており、約8割の教員が悩んでいることを明らかにしている。悩んでいる内容は、作成にかかる時間が負担であること、アセスメントに不安があること、目標設定の難しさなどであった。特に目標設定はマニュアル化しにくく、児童生徒本人の願いもなかなか反映できていないという結果となっている。

1 香川大学教育学部

2 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

海津・佐藤(2004)は、「個別の指導計画を作成するにあたっての重要なポイント」として、「①子どものつまづいている領域(課題)を把握しましたか?②評価(○×)できるような具体的な目標になっていますか?③目標は子どもの視点で書かれていますか?④目標は一つにしぼられていますか?⑤手だての内容や量が子どもにとって適切であったかを評価しましたか?」というポイントカードを作成し、個別の指導計画を作成したことがない小学校教員への研修プログラムを検討している。

池田・半田(2020)など、個別の指導計画作成のための研修プログラムの検討や校内研修のあり方等の検討もなされてきているところである。

これらの調査からも明らかのように、日々の忙しさの中で自分が作成できるのかという不安などの心理的な負担感や時間や労力の負担感と、アセスメントから目標作成、評価に至る作成に関する能力など、実際に取り組むまでには多くの壁が存在している。

香川県では、令和2年度文部科学省委託事業「経験の浅い担当教員の専門性の向上に係る支援体制構築研究事業」として、特別支援教育スキルアップ事業を実施し、経験の浅い担当教員に身につけてほしい特別支援教育の専門性を「個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成力」と捉え、それらの力の向上のために必要な資質と支援体制の在り方を探り研究に取り組んできた。

この事業では、中心的な検討機関として、大学、福祉、労働、特別支援学校等の関係者からなる特別支援教育スキルアップ検討会議を設置し、「育成指標に基づいた研修内容の見直し」「地域の指導的立場の教員の研修や相談体制の整備」をテーマに検討を進めた。モデル校での教育実践や特別支援教育スキルアップ検討会議での協議の結果「個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成力」の向上のために必要な資質を「子どもから学び、協働して取り組む力」とし、県で定めている育成指標の下位項目に追加する形で「特別支援教育マスター指標」として設定した。

この事業は、「個別の教育支援計画・指導計画作成力」を①子供理解力、②授業力、指導力③関係機関連携力と捉え、それらの力の向上のために「子どもから学び、協働して取り組む力」の育成と専門的な指導支援の役割を果たす指導的立場の教員の育成を促す支援体制の在り方を探り、その成果を県全体に普及することで、経験の浅い教員の特別支援教育の専門性の向上を図ることを目的としている。

そのため、香川県教育センターでの基本研修や職務研修等で必要な研修計画の構築や、大学の教授法については、「特別支援教育マスター指標」に基づき、「個別の教育支援計画・個別の指導計画作成力」の育成に関する①観察やアセスメントに基づく実態把握(子供理解力)②個別の指導計画をもとにした指導目標の設定、指導内容、指導方法の決定(授業力・指導力)③関係機関の事業内容の理解と活

用(関係機関調整力)の観点から検討を行うこととしている(香川県教育委員会2020)。

本研究は、大学の学部生に対して、この基礎的な部分となる「教員養成段階で大学生が個別の指導計画を知り、実際に一度は作成してみる」という課題のもとに演習方式での実践を試みたものである。香川県教育委員会特別支援教育課との連携のもと、簡易版個別の指導計画(図1)の作成を目標として、短時間でできるワークを考えた。

特別支援学校教諭免許状に関する科目履修を終了している教育学部生を対象にワークを実施し、まだ学校現場での経験がない教員養成段階で、個別の指導計画をどの程度作成できるのかを試みたものである。

2. 方法

1)実施時期 参加者

実施時期は2021年2月、このワークの参加者は教員養成課程の主に4年生26名である。主免は小学校や中学校であり、特別支援教育以外の領域に所属しており、副免として特別支援学校教諭免許状を取得見込みの学生である。コロナ禍によって、例年より教育実習期間が短くなったが、附属特別支援学校においてほとんどの者が4年次に教育実習を行っている。

2)アンケート

ワーク実施の事前及び事後に、「個別の指導計画を作成する自信があるか」を「ない」「あまりない」「ある程度ある」「ある」の4件法で回答を求めた。

3)実施したワーク

①児童の実態把握について

児童の実態を把握するために、約1分半の短い動画を作成した。香川県教育委員会及び香川県教育センターの指導主事と協力してシナリオを作成し、教師役と児童役5人は大学生が演じた。場面は小学校中学年を想定した校外学習の事前指導の場面と算数の時間の指導の2場面を提示した。校外学習場面での主なセリフは以下のとおりである。ワークシートにも同様のセリフを載せている。児童役5人がそれぞれ発言している部分もあるので以下のセリフがすべてではないが、下線部の発言をする児童「佐藤君(仮名)」を個別の指導計画を作成する対象児童としている。

教師「今日は校外学習の持ち物について確認します。」

(板書しながら)「弁当、水筒もいります。弁当の後は?」

児童「おやつ」(全員)

児童「先生、おやつにガム持っていったいい?」

教師「ガムはいろんなところにひっつくのでだめです。」

児童「1年生の時にはもっていった。」

教師「じゃあちょっとだけなら大丈夫。」

児童「先生、公園までバスどれくらいで行くん?」

教師「それはまたあとから話すから。」

個 別 の 指 導 計 画

(R . . . 作成) 担任名 (. . .)

第 学 年 組	氏 名		
本児の困難さ及び特性			
子 教 師 ・ 保 護 者 の 保 願 者			
身につけたい力	① ----- ②		
	本児への支援		指導の評価・本児の様子 (◎ ○ △)
指導について①	支援内容 ----- いつ どこで だれが どんな方法で 何をするか		
	本児の変容		
指導について②	支援内容 ----- いつ どこで だれが どんな方法で 何をするか		
	本児の変容		
× モ			

図 1 個別の指導計画(簡易版)

児童「先生、雨降ったらさ、中止になる？」

教師「佐藤君、静かにしなさい！」

②ワークシートの内容

A：校外学習の事前指導(B:算数の時間も同様)

1. こんな場面がありました。動画を見ましょう(動画のセリフ記載)
2. 佐藤君の困っていることは何?どんな特性があるでしょう?
3. 佐藤君の心の中は?
4. 佐藤君につけたい力は?
5. 今後どのような支援をしたらいいでしょう?
6. 個別の指導計画を考えましょう

4)実施手順

①児童の実態把握

一つの場面について、動画を2回視聴した。

②ワークシートへの書き込み

ひとつずつワークシートの間に対して書き込みを行い、その後受講者同士でシェアした。

③個別の指導計画の作成

このワークシートへの書き込みを基に、個別の指導計画の枠に当てはめるやり方で、一番簡易な形式の個別の指導計画(簡易版)を作成した。

3. 結果

下記の問1～問4の回答をワークシートに記入したのち、「個別の指導計画(簡易版)」(図1)に書き込んで演習を終了した。以下は、ワークシートの各問いに対する学生の回答である。

問1. 佐藤君の困っていることは何?どんな特性があるでしょう?

- ・疑問をすぐに解決しないと不安になる
- ・先の予定が分からないと不安になる
- ・先生が話しているのを遮って話してはいけないことが分からない
- ・予定の見通しが持てていないこと
- ・場の雰囲気を読むことが苦手
- ・疑問があったらすぐ聞く
- ・見通しが立たないと不安になる
- ・予定が分からないので不安
- ・授業や校外学習の内容に関する見通しが立っていない
- ・自分の考えている疑問はすぐに解決したいと思う
- ・気になることをすぐ解決しないと不安になる
- ・校外学習に向けて不安がたくさんある。聞きたいことがたくさんある
- ・分からないことがあったらすぐ聞いてしまう。注意を引かれる内容がいっぱいあるため気になる

- ・先生に注目してほしい
- ・分からないことが不安
- ・分からないことがあると不安になる
- ・遮ってはいけない場面が分かっていない
- ・気になることがあると他のことに集中できない
- ・自分の気になっていることはその場で解決しないと気が済まない
- ・見通しがもてない
- ・自分の中の疑問が解決できないと不安になる
- ・分からないことがあると不安になる
- ・気になったことを口に出さずにはいられない
- ・見通しが持てないこと。気になることがたくさんあり不安
- ・気になったら言うてしまう、待てない

問2. 佐藤君の心の中は?

- ・なぜ分からないことを聞いてはいけないのだろう
- ・分からないから聞いているのになんで怒られるの?
- ・聞いて
- ・なんで先生は今全部教えてくれないんだろう
- ・わからないことがたくさんあって不安だな
- ・なんで怒られるんだろう?
- ・質問したらだめなの?
- ・気になる!先生なんで怒っとん
- ・先生早く教えてよ
- ・なんで知りたいことを聞いただけなのに、怒られたんだろう?
- ・なんで聞いちゃいけないの
- ・分からないから今すぐ教えてほしい
- ・なんで教えてくれない?
- ・どうして怒ったのかな
- ・今日何をやるのだろう。不安だ
- ・なんで今教えてくれないんだろう。なんで後で話すのかな。今知りたいのに
- ・先生の説明不足 なんで怒られる
- ・分からないときに質問してもいいよね?
- ・分からないことばかりで聞いたのに何で怒られたのだろう
- ・今知りたい
- ・どんなことをやるのかな。分からないことがたくさんあるな。先生に聞いてみたいのに
- ・分からないことがあっても質問したらだめなの?
- ・どうして先生怒るのかな 分からないから聞いているのに!

問3. 佐藤君につけたい力は?

(下線は筆者)

- ・自分の不安や聞きたいことを聞いていい時に聞ける力

- ・話を聞いている間は静かにする力
- ・教師が話している間は最後まで聞く
- ・全体の場で思うままに発言するのではなく、待つことができるようになる
- ・最後まで人の話を聞く力
- ・質問するときは、質問タイムにする
- ・場の雰囲気を読む力。質問する時にいったん自分の中で考えて発言する力
- ・人の話を聞く力
- ・疑問点があり質問したいときは、話が一通り終わるまで我慢する力
- ・最後まで話を聞く力
- ・先生が一通り話し終わってから質問すること
- ・適切な場面で発言する力
- ・質問してもいいタイミングになったら質問する力
- ・質問をまとめてする
- ・周りのことを考える力
- ・人の話が終わるまで聞く我慢強さ
- ・最後まで話を聞く力・話を聞くときと質問するときの区別をする力
- ・先生に今聞いて良いですかと尋ねる力
- ・質問するタイミング
- ・場の雰囲気を読んで、質問しても良い時を考えて発言する力。
- ・待つこと・手を挙げてから発言

問4. 今後どのような支援をしたらいいでしょう？

(下線は筆者)

- ・質問タイムを設ける
- ・「質問カード」を複数枚(3枚ほど)持っておいて、その回数分しか質問できないようにする。また、質問したいときは、そのカードを黙って挙げるようにする
- ・先のスケジュールを確認して明示する。質問タイムを設ける
- ・「質問タイムを取るので質問があったらその時に言ってね」と事前^に言う
- ・見通しが持てるよう今日の予定を先に説明する
- ・事前^に気になることを聞いておく、途中で気になることが出てきたら後で聞くように約束しておく
- ・「静かにカード」で静かにするタイミングを分かりやすくする
- ・質問したいときは手を挙げてもらう
- ・疑問が多く生まれにくい話し方を意識しながら、最後に必ず質問する時間を確保することを約束する
- ・質問タイムを設ける
- ・最初に先生が一通りお話ししますと言っておき、最後に質問タイムを設ける
- ・発言できるカードを置いて、枚数分だけ質問できるよう

- にする
- ・話すことの要点を先に示しておく
- ・質問できる時間があると事前に言う
- ・話すことに見通しを持てるようなカードを黒板に貼っておく
- ・スケジュールを視覚化し、見通しを示す話を聞く時間と質問する時間を明確に分けて黒板に貼るなど視覚化する
- ・「聞く時間」「話す時間」の札を見せながら話す
- ・「お話カード」を作って、そのカードを持っている人の話を聞くようにクラス全体でルールを決める
- ・説明の内容をあらかじめプリントで配り、見通しを持たせる
- ・手を挙げてから発言するルールの設定・手を挙げてから発言する場面と次々に意見を出す場面の切り替え・ナンバリングによって見通しを持たせる
- ・自由に発言してよいときと、そうでない時を掲示物等で視覚的に提示する。
- ・今日話す項目を最初^に示しておく

ワークを実施する事前・事後にアンケートを実施した。「個別の指導計画を作成する自信があるか」の質問に対し、事前は26人全員が「ない」(8人)、または「あまりない」(8人)という回答だった。ワーク実施後には、26人中「ある」が1人、「ある程度ある」が23人、「あまりない」が3人、「ない」は0人となった(図2)。

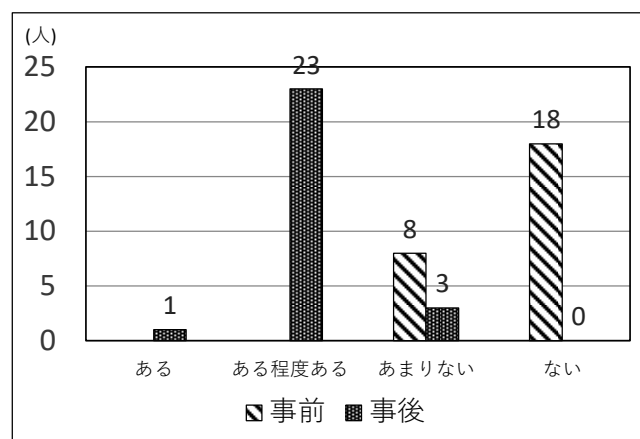


図2 「個別の指導計画」作成の自信

4. 考察

アンケート結果から考えると、個別の指導計画作成にあたっての最初の心理的な壁はかなり低くなったと言える。ただし、提出された個別の指導計画の内容については妥当なものとは言えないものも多かった。

前述の海津ら(2004)によるポイントである「①子どものつまづいている領域(課題)を把握しましたか?②評価(○×)ができるような具体的な目標になっていますか?③目標

個別の指導計画

(R . . . 作成) 担任名 ()

第 学 年 組		氏 名	
本児の困難さ及び特性	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてないと不安に感じやすい。 ・気になることができたなら、確かめずにはいられない。 ・自分の気持ちをコントロールすることが難しい。 ・「あとで」といった曖昧で感覚的な表現を理解することが難しい。 ・衝動的に動いてしまうため、その場には不適切とされる言動をしてしまうことがある。 ・自分がどうして怒られたのか、その理由を理解しきれていないことがある。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもてないことに対する不安をなくしたい。 ・上手に気持ちのコントロールができるようにしたい。 ・教師からの話の内容を理解できるようにしたい。 		
身につけたい力	①気持ちをコントロールする力		
	②発言したいことがあった場合、すぐさま発言するのではなく、発言していい時間に発言する力		
本児への支援			指導の評価 (◎ ○ △)
指導について①	支援内容	話の中で疑問に思ったことをメモに書いていくようにする。メモしたものは、後で質問していい時間にまとめて聞くことができるというルールを作る。	
	いつ どこで だれが どんな方法で 何をするか	話を始める前に、教室で 対象児と教師（慣れたら対象児だけで）、メモを用意して、疑問に思ったことをメモに書いていく	
本児の変容			
指導について②	支援内容	黒板に、スケジュールを書き、今は「話を聞く時間」なのか「質問をする時間」なのかかわかるカードを貼る。同じカード（裏表になっているもの）を対象児の机の上にも置いておき、意識することができるようにする。	
	いつ どこで だれが どんな方法で 何をするか	話を始める前や話をしている時、教室で 教師…黒板にスケジュールを書いてカードを貼る 対象児…教師が黒板のカードを裏返すのと一緒に机の上のカードを裏返して何をやる時間か確認する。	
本児の変容			
メモ			

図3 簡易版個別の指導計画例（特別支援教育領域4年生作成）

は子どもの視点で書かれていますか？④目標は一つにしぼられていますか？⑤手だての内容や量が子どもにとって適切であったかを評価しましたか？」のうち、①から④までを参考に検討した。

「問1. 佐藤君の困っていることは何？どんな特性があるでしょう？」、つまり「①の子どものつまづいている領域（課題）を把握しましたか？」にあたる部分については、「先の予定が分からないと不安」「場の雰囲気をよむことが苦手」「気になったことを口に出さずにはいられない」とあり、この短い劇の中で設定していた中での子どもの実態を全員がおおむね把握できていると言える。

「問2. 佐藤君の心の中は？」つまり「③目標は子どもの視点で書かれていますか？」にあたる部分として、子どもの気持ち子どもの立場で考えられているかについて、「不安だ」「どうして怒られるんだろう」「先生、早く教えてよ」「今、知りたいのに」等々、子どもの頭に浮かんでいそうなことばや気持ちが出されていることから、これもおおむね「子どもの立場に立って考えることができている」と言えるだろう。

「問3. 佐藤君につけたい力は？」これが個別の指導計画の目標となっていくものであるが、これにはばらつきがある。②評価（○×）できるような具体的な目標になっていますか？というポイントを押さえているかどうか、というと、「我慢する」や「最後まで話を聞く」など、あいまいな目標が設定されているものも多い。さらに、何らかの支援を必要としている児童に対して、「空気を読む」や「タイミングをはかる」などは特性を理解した目標設定とは言えず、妥当とは言えないだろう。

一方、「問4. 今後どのような支援をしたらいいでしょう？」は、今後どのような指導をしていくか、という問いであるが、この支援方法については具体的なものが多く出されていた。「質問タイムを設ける」「聞く時間と話す時間を分ける」「発言のルール決める」などすぐ実行に移すことのできる支援方法が多かった。これらは特別支援学校での実習等が活かされていると考えられる。

時間の制約もあり、振り返りや事後指導が不十分であったが、今回のワークは個別の指導計画を作成する際の心理的な壁を低くするには役に立っており、あとは目標設定のためにグループワークなど複数人数で検討を重ねることや指導が必要なのだと思う。

今後はこれらの最初の簡易なワークの後、複数でそれぞれの個別の指導計画を振り返り、次に実際に担当している児童生徒の計画を作成する。その際も、児童理解が妥当なのかどうか、子どもの立場に立って考えることができているか、短期目標として妥当かどうかを複数の参加者で考え、意見のやりとりをしながら話し合っって作成していくことが必要だと思う。

参考文献

- 海津亜希子・佐藤克敏(2004)「LD児の個別の指導計画作成に対する教師支援プログラムの有効性—通常の学級の教師の変容を通じて」教育心理学研究 52(4), 458-471.
- 赤木和重・大塚真由子(2019)「特別支援学校教員を対象とした個別の指導計画に関する意識調査：作成上の悩みや困難に焦点をあてて」SNE journal 25(1), 162-175.
- 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編, 114-115.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2019/03/18/1387017_001.pdf 2021年5月24日閲覧
- 文部科学省(2018) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編, 456.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2019/02/04/1399950_3.pdf 2021年5月24日閲覧
- 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議(2021)「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」
https://www.mext.go.jp/content/20210208-mxt_tokubetu02-000012615_2.pdf 2021年5月24日閲覧
- 池田千穂, 半田健(2020)「中学校特別支援学級担任を対象とした個別の指導計画作成に関する研修プログラムの効果」宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要(28), 221-230.
- 香川県教育委員会(2020) 文部科学省委託事業「経験の浅い担当教員の専門性の向上に係る支援体制構築研究事業」